

特別講演 2

「包括的脂質コントロールで予後改善を目指す

—スタチン再評価と新たな SPPAR α への期待—

順天堂大学大学院医学研究科 循環器内科学 准教授

岩田 洋 先生

スタチンによる LDL コレステロール (LDL-C) 低下による冠動脈疾患などの動脈硬化性疾患における心血管イベント発症抑制効果は確立され広く用いられていがリスクは残存している。それらの残余リスクへのアプローチはきわめて重要であると考えられる。残余リスクコントロールとして、LDL-C へのさらなるアプローチのほか、高中性脂肪と低 HDL コレステロール(HDL-C)は、スタチン内服中で LDL-C がコントロール下であっても心血管イベント発症へのリスク因子であることが示されている。PPAR α のアゴニストであるフィブラートは、中性脂肪を低下させ、さらには HDL-C を上昇させる作用があるが、これまでのフィブラートの心血管イベント抑制効果については確立されていない。本講演では従来のスタチン治療後の残余リスクコントロールについて「慢性炎症」をキーワードに、予後改善を目指す脂質管理について議論したい。